



▲道路元標が設置されていた
初代阿門村役場付近



資料館玄関に移されている
「阿門村元標」▶

郷土資料館の玄関ポーチの向かって右側奥に解説板とともに一幅約25センチメートル四方、高さ約60センチメートルの円頭形をした古びた石柱が置かれています。その正面をよく見ると「阿門村道路元標」という文字が刻まれていろのがわかります。

ついで、日本の道路の起点はどこにあるのか、「」存知ですか。

江戸時代には「お江戸日本橋」が、東海道五十三次など江戸と各地を結ぶ五街道の起点となっていました。明治時代になっても、江戸時代の起点がそのまま引き継がれ、東京・日本橋と京都・三条大橋の橋の中間が諸街道の起点として定められたそうです。やがて、近代化を進める明治政府は、明治18(1885)年に、日本橋を起

点として各地への国道網を定めました。ただし、明治時代は鉄道網の整備が優先され、道路網の整備は進まなかつたのです。

その後、大正10(1921)年に、60センチメートルの田頭形をした石柱が置かれています。その正面をよく見ると「阿門村道路元標」という文字が刻まれていろのがわかります。

ついで、日本の道路の起点はどこにあるのか、「」存知ですか。江戸時代には「お江戸日本橋」が、東海道五十三次など江戸と各地を結ぶ五街道の起点となっていました。明治時代になっても、江戸時代の起点がそのまま引き継がれ、東京・日本橋と京都・三条大橋の橋の中間が諸街道の起点として定められたそうです。やがて、近代化を進める明治政府は、明治18(1885)年に、日本橋を起

点として各地への国道網を定めました。ただし、明治時代は鉄道網の整備が、法律によつて認可されました。



道路の出発点となつた「阿門村道路元標」

x

郷土資料館の お宝探訪

郷土資料館の大事な仕事のひとつに、播磨町の歴史を彩る様々な資料の収集や保管があります。本年度は、数ある資料館の収蔵品のうち、代表的なものを紹介していきます。

播磨町郷土資料館 0079(435)5000

の整備が優先され、道路網の整備は進まなかつたのです。

その後、大正10(1921)年に、60センチメートルの田頭形をした石柱が置かれました。そこには、「道路元標」を名市町村に1ヶ所設置するといふ、道路元標の設置し

た阿門村の役場を国道や府県道の起点とするとき、道路元標の設置した地點を起点とするといふことが定められました。これによって、全国一斉に道路元標が設置され、当時の阿門村(現播磨町)でも今から8数年前の大正9(1920)年に、道路の出発点となる石柱(元標)が立てられました。

当時は1万2千以上の市町村(市町村の合併が進み、現在は1千70余)があつたので、全国で1万2千余りの道路元標が設置されました。これによつて戦前の道路網が整備され、全国、津々浦々に道路の基点として道路元標の石柱が、法律によつて認可されました。

阿門村といつたものの初代の村役場のあつた本莊町東所(現本荘2丁目付近)に、この道路元標が立てられていました。ところに村役場が置かれていたのは、阿門村が誕生した明治22(1889)年から1代目の村役場に移った大正15(1926)年までの間のことです、今は静かな住宅地となつていて、その面影はあります。

戦前、わが国の道路網整備事業の一環として建てられた道路元標ですが、戦後は道路の拡張や市町村の合併などによつて、多くは忘却された存在になつてしまいまし

た。風雪に耐えて、わが国の近代化の証拠として残つた道路元標は、道路プロジェクトを支えた歴史的な文化遺産として、今は郷土資料館の玄関ポーチに場所を移して余生を過ごしております。

播磨町郷土資料館 館長 井守徳男

※今月は特別展開催期間中(10月7日～12月2日)ですので、館内での展示はありません。
資料館ポーチ脇に展示していますので、ぜひ本物を見に来て下さい。

町の人口 9月1日現在

(住民基本台帳人口+外国籍人口)
34,745人(+5人) 男…17,046人(-6人) 世帯数…14,115世帯(-1世帯)
女…17,699人(+11人)